

G3 vol.136 「コーダ・ヨーコ原画展 どうぶつえんのどうぶつたち」

熊本市現代美術館×熊本市動植物園 市民とつくるアートプロジェクト

「コーダ・ヨーコ 水とあそぶどうぶつたち」 大壁画完成までの道のり

富澤治子（熊本市現代美術館学芸事業班主幹兼主査・学芸員）



G3 vol.136 「コーダ・ヨーコ原画展 どうぶつえんのどうぶつたち」

会期 2020年9月2日(水) - 10月25日(日)

会場 熊本市現代美術館 ギャラリー III・井手宣通記念ギャラリー

■ きっかけ、館内子育てひろば横の廊下の課題解決

2020年10月12日完成を期日として、当館は熊本出身・在住のデザイナーで画家のコーダ・ヨーコに、館内子育てひろば横の廊下のリニューアルを目的とした、市民参加型プロジェクトとして制作する大壁画の委託制作を依頼した。

大壁画のロケーションである子育てひろば横の廊下は、子育てひろばと、井手宣通記念ギャラリー、企画展示室3（通称GⅢ）から、授乳室、多目的トイレ2室、男子トイレ、女子トイレへと繋がる細い廊下で、館内の奥まった場所に位置する。廊下の片側にはトイレなどの出入口があり、別の側には機械室や通用口、非常口があり、ほか大きな白壁が2面続く。壁面サイズは、高さ288cmが共通、それぞれ幅約870cmと約780cmである。

2002年の開館以来、この廊下は、当館企画のグループ展出品の若手作家のインスタレーション作品展示や、熊本市上下水道局主催の公募写真展、くまモン誕生祭のポスター展示などに使用してきたが、筆者を含め職員は人目の少ないこの場所の活用には消極的だった。

また、経年劣化による壁の汚れと、節電志向による照明の暗さで、この場所には「暗くて汚い」というマイナスのイメージがあった。そのイメージを払拭したく、2018年には、開館20周年（2022年）の周辺で改善したいことのひとつとして、この廊下のリニューアルを館内で提案し、コーダに依頼する方向で実施のタイミングを計っていた¹。

2019年夏に、この壁画の制作についてコーダに相談を始め、作家と協議を進めるなかで12月下旬には翌年の個展開催とあわせての実施を改めて依頼、作家の快諾を得た。そして実質的な壁画制作の時期として、コーダの個展会期初日（2020年9月2日）に揃えての作画開始、そして当館開館記念日である10月12日の作品完成を期日と設定し、同時進行で進めていくこととした。

■ コーダの個展内容について

2020年秋、コーダの個展「G3 vol.136 コーダ・ヨーコ原画展 どうぶつえんのどうぶつたち」を当館で開催した（会期：2020年9月2日ー10月25日）。会場は、企画展示室3（GⅢ）と井手宣通記念ギャラリーの両室で、263平米の空間である。

この個展のタイトル「コーダ・ヨーコ原画展 どうぶつえんのどうぶつたち」はコーダの提案によるもので、同タイトルの個展は、本展開催以前にすでに熊本県内と九州各地の計9か所で開催されていたが、全原画が一堂に並んだのは当館のみである²。本展は、この一連の原画展のいわば集大成の場としたいというコーダの想いもあり、2019年末の時点で、出品作品については、熊本市動植物園のどうぶつ案内板の原画の全点プラス新作展示とほぼ確定していた。

また、この壁画制作にあたり、子どもたちを交えてのプロジェクト型で実施したいとの当館のリクエストに対し、「個展と同時進行で壁画制作を行うとしたら、〈動物〉をテーマに行うと

楽しそうですね」と作家からの提案があった。

一方で、展示会場を、GIIIと井手宣通記念ギャラリーをあわせて拡大することにしたのは、大壁画のために寄せられた子ども達の絵を展示することにしたコロナ禍対応バージョンへの変更後に決めたことである。最終的に会場では、コーダが描いた動植物園のどうぶつ案内板の原画 96 点と新作 9 点の合計 105 点、コーダ取材による獣医・飼育員紹介パネル 13 点、そして大壁画制作のためのプロジェクト（以下壁画プロジェクトと示す）の一環として行った「募集：どうぶつたちを描く」への応募作品 133 点の絵画を展示した。

つまり、コーダの個展と壁画制作は、コロナ禍を機に大きく方向転換をしながら進めていくこととなった。

【コロナ禍のはじまり、初期計画頓挫

コロナ禍の始まる前、2020 年 1 月の時点では、この壁画プロジェクトは、完成に到ったやり方とは異なる内容で企画していた。当初は、年齢 5 歳以上の 20 名程度のチームを公募で形成し、動植物園の協力のもと、動植物園でガイドに話を聞く回と、園内で絵を描く回の 2 度のワークショップを初夏までに行い、その時の完成品を壁画に活用するという計画を立てていた。

また、この壁画の実物大デジタルコピーを、2020 年 10 月に開催予定だった「第 4 回アジア・太平洋水サミット」のメイン会場である熊本城ホールのエントランスに展示、それを用いて市民参加型ワークショップを実施するという計画もあり、当館・動植物園・熊本城ホールと、市内の性質の違う文化施設が連携するアートプロジェクトとして進める予定であった。

しかしながら、2020 年 2 月末からコロナ禍により当館は閉館、動植物園も閉園。水サミットも延期となり（2022 年 4 月 22・23 日実施）、何度かスケジュール調整等を試みたものの、この初期計画は頓挫した。

【コロナ禍対応バージョンへの切り替え、一般公募の実施

2020 年 2 月末よりコーダをはじめ関係者とメールのやり取りを重ね、壁画プロジェクト自体の次年度延期も考慮に入れていたが、筆者が「この局面だから深く思い出に残るということもあるかもしれない」と記したメールにコーダが反応したことが転機となる。2020 年 4 月 4 日、コーダが実施への意欲をメールで示し、当館と動植物園が閉館している状況下で行うための変更案を提示したことで、壁画プロジェクトは、コロナ禍対応バージョンで再始動することになった。

この時のコーダの数々の提案によって壁画プロジェクトは、さらに市民に開かれたものへと変容した。提案内容は以下の通りである（抜粋）。

- ・募集して約 20 名定員 → 動物の絵を「広く公募」するに変更
(描いて欲しい動物のリストをつくる)
- ・規定の画用紙を準備
- ・締切日を決める。美術館に直接持参もしくは、曲がらないようにして郵送
- ・応募作品の中から、厳選して 20 ～ 30 点を壁画に採用する
- ・不採用になった作品は、反対側の壁(筆者注：井手宣通記念ギャラリー)に全て展示

この進め方ですと、「集まる」という行為は、状況に応じて変更できますし定員を決めて狭くしてしまうよりも、広く公募にすることで「家の中で楽しみながら出来ること」を、たくさんの人に広げられるなあと…。

このメールから 4 月中旬までの間に続けてやり取りを行い、公募にあたってのルールを決めていった。

画用紙は、当館向かいにある老舗の文房具店「甲玉堂」にコーダと足を運び、コーダもよく使うゴッホ画用紙 (B3 サイズ) を選択した。

対象年齢は 5 歳から 25 歳までの熊本県在住者 (年齢は小学生から大学院生までがターゲット) とした。対象者を決める際に、当館と動植物園はともに市施設であるため、当初は熊本市在住者を想定していたが、コーダの「現代美術館も動植物園も、熊本県内に 1 つしかない」との発言によりエリアを県下に拡大した。また、主なターゲットを学生の年齢に限定したのは、突然の期限未定の休校で、さぞかし不安な時間を過ごしているのではとのコーダの配慮からである。

描く動物は、動植物園にいる動物リスト 26 種 (コーダ作成) を参考に、背景なしで 1 匹の全身を描くよう指定した。

当時、開館の目途は立たなかったため、指定の画用紙は応募者に当館から郵送し、完成した作品は参加者費用負担で返信してもらうことにした。

画用紙価格と梱包材価格、発送費を参考に、募集人数は 150 名 (先着順) に決定し、公募の受付開始は 2020 年 5 月 15 日から当館に電話での申し込み、絵の提出の締め切り日は 7 月末日必着とした。

休館中のため、応募に関する広報は主にオンラインで行うこととし、コーダがデザインした募集用ちらしは、5 月 1 日から公表した。

続いて、画用紙とともに送る申込用紙への記載事項について決めていった。コーダからメールで、以下のような提案が示された。

- ・新型コロナの影響で閉園・閉館を余儀なくされている動物園や美術館へ、みんなの元気を届けてください…みたいな、(まだ言葉がまとまりませんが) そんな、メッセージと共に募集をかけてみてはいかがでしょう? 広く公募することの意味を表現することで、前向きな目標に捉えてもらえるような気がします。

・現美の開館記念日に完成ということや、選ばれた作品は現美の館内の壁画として約10年展示される予定ということも大きなことですので、記載しておくことでみんなやる気が出ると思います。

画用紙に同封する申込用紙（付録1）には、動物の絵を描く時のルール、作画見本、動物リストとあわせ、作家メッセージを掲載した。

作家メッセージは次の通りである。このメッセージの完成版は2020年4月16日にメールで到着した。

今、世界中の人々が、元気をなくし不安な毎日を過ごしています。
先が見えない不安や、行きたい場所へ行けない悲しみ、大切な人に会えないさみしさ…
みなさんも、いろんな思いで毎日を過ごしていることでしょう。

こんな時だけど…、こんな時だから、絵を描いてみませんか？
わたしはいつも不安な時に絵を描いて心を落ち着かせてきました。
夢中になって絵を描いていると、不安な気持ちを忘れ、自分を取り戻せるのです。

ぜひ、みなさんの元気いっぱいのだうぶつを届けてください。
うまく描こうとせず、その時間をおもいきり楽しみながら描いてください。
そうやって完成した作品は、今度はきっと誰かの元気の素になります。

閉館・閉園を余儀なくされている「熊本市現代美術館」と「熊本市動植物園」のみなさん、今後、熊本で開かれる予定の「アジア・太平洋水サミット」事務局スタッフの方々と一緒に企画しました。
みなさんの元気な作品を、みんなで楽しみに、待っています。

コーダ・ヨーコ

準備を整え、壁画プロジェクトのはじまりとして「募集：どうぶつたちを描く」の公募を開始したところ、コロナ禍初期の市民参加型のアート活動として、マスコミ等の注目も高く、公募初日（5月15日）には約80名の申込があり、1週間後の5月21日には定員に達した。このようなスピードで公募が定員に達することは、それまで当館としてほとんど経験がなく、コロナ禍での市民のニーズを実感する貴重な体験となった。

完成作品は、5月末より徐々に到着した。到着し次第、作品とアンケート欄を撮影、その都度コーダにメールで送り、それらの作品が持つフレッシュな息吹に出会う感動を共有した。

作品に同封された参加者アンケートにはどれもたくさんの書き込みがあった。低年齢の参加者の場合は、保護者からのレポートに、参加者が自ら動物を選び、動画や図鑑などでじっくり調べて頑張って描いていた旨が記されていた。小学3年生以上の参加者本人からは、「楽しかった

たです」「大きな絵を初めて描いたので満足」「ひさしぶりに絵を描いた」などと、休校中の不安の時間を創造の時間へと転じた喜びの声が寄せられた。

【令和2年7月豪雨】

2020年7月、応募締切日まで約1か月という時期に、長雨が続き、球磨川が氾濫した熊本豪雨が発生した。このプロジェクト参加者には人吉在住者も含まれており、また、熊本市在住であっても親戚や友人が住んでいる人も多いただろうと想像し、コーダと相談し、参加者全員に心ばかりのお見舞いの手紙を送ることにした（付録2）。

手紙送付後に、当館に到着した絵に添えられたアンケートのひとつには、この手紙を送ったことへの好意的なメッセージが記され、作家ともどもほっとしつつも、ひとりひとりの気持ちと生活に思いを馳せるきっかけとなった。中学生の参加者が記してくれた言葉は、以下の通りである。

「楽しみながら描いて」というコーダさんからの前向きなメッセージ、また水害後に届いた手紙など、参加者を明るくしてくれるような方針が素晴らしかったです。

結果として、7月末提出期限のこの公募には、150名の申し込みにつき、133点の動物の絵が当館に届けられた。88%という高い参加率は、この壁画プロジェクトの最初の成功を示すものだった。

市民から届いた動物の絵の一番人気はフンボルトペンギン（16点）、マサイキリンとライオン（11点）が同率2位だった。ほかりスト外からは、カメ、プレーリードッグ、ベニコンゴウインコ、ピントロング、カンガルー、ウンピョウの絵が到着し、多種多様な動物たちの絵が集まる結果となった（動物リスト26種内で届かなかった動物は2種のみ）。

【壁画の完成に向けて、その1 動物の絵を選ぶ】

この公募の準備と同時に、コーダは壁画制作の準備を進めていた。

2020年4月上旬にはコーダからデジタル作画での完成イメージ図第1案が提出された。完成イメージは、江津湖をイメージソースとした水辺の楽園を背景とする動物達の群像図として提案された。このコーダのイメージ図を受け、さらに当館より、コーダ作画による動物の絵を5、6種加えることで全体のリズムとバランスと構成を作り、壁面全体をまとめて欲しいと提案し、その方向で準備を進めることとなった。

2020年8月4日、コーダは背景のイメージを確定させ、動物達を仮に配した完成イメージ図を作って、壁画に使用する作品の選考日を迎えた。

選考会場（当館会議室）の机に、すべての絵を並べたのち、まずは、動物ごとのグループにまとめ、その後を選抜を行った。それぞれの作品の工夫や着眼点にコメントしながら、31点の作品を選んだ。



それらの動物の絵 31 点は、まず、印刷業者に依頼して高画質スキャンを行った。続いて、設営業者がコーダ作成の全体完成図に基づき、各動物の出力サイズの調整を行い、塩ビシートにプリント出力した。そのシートは、各動物の羽毛・毛並みの表現が損なわれないよう、シルエットの繊細な切り抜きが手作業で行われた。作業にあたったスタッフの「孫が描いた絵みたいなものだからね、必死に作業したよ!」との言葉と温かい笑顔が記憶に残っている。

■ 壁画の完成に向けて、その2 背景画制作と動物の絵接着、そして完成

壁画の背景画作画にあたり、コーダは水色、白、緑の3種の水性塗料を、色見本を参考に選択し、設営業者に発注した。刷毛などの道具は持参し、9月14－15日、9月20－22日と背景画を描いた。コーダがひとりで行う作画作業である。かなりの大画面だが、脚立に乗り移動しながら、淡々と描き上げていった。

背景画完成後の10月5日、コーダは持参した完成予想図を手に、各動物のシートを背景画が描かれた後の壁に仮配置し微調整し、その後、設営業者による壁への接着作業が行われた。



撮影：坂本和代







動物の絵は31種、廊下の入口から、メガネカイマン、ベニイロフラミンゴ、フンボルトペンギン、ホッキョクグマ、カバ、シフゾウ、インドクジャク、キンシコウ、モモイロペリカン、シマウマ、カピバラ、ワオキツネザル、マサイキリン、ライオン、アフリカゾウ、シマウマ、ニホンイヌワシ、マンドリル、カンガルー、ベニコンゴウインコ、アフリカゾウ、アムールトラ、ユキヒョウ、キンシコウ、フンボルトペンギン、ベニイロフラミンゴ、ヒガシクロサイ、カバ、フンボルトペンギン、キュウシュウジカである。

コーダの動物の絵は、廊下の入口から、オタリア、クロクモザル、コクチョウ、チンパンジー、ニッポンツキノワグマが登場する。構図全体の引き締め役として、黒もしくは暗色の毛色の動物が選ばれている。また、完成予想図には無かったものの、空間全体を鑑みて、新規で木と池とオオバン2羽が描かれた。

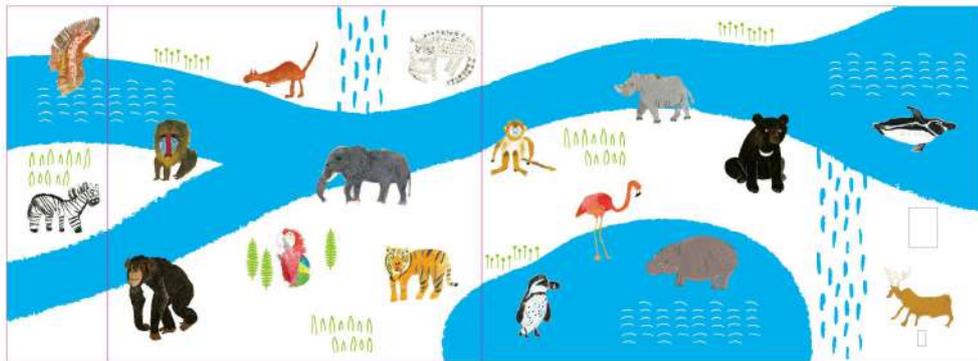
この壁画において、動物達が生態としても自然な場所にレイアウトされている点は、熊本地震時より動植物園の仕事を手掛け続けているデザイナーとしてのキャリアと、画家としての活動の両立を長年続けてきたその実力によるものである。

2020年10月12日、最後の加筆ののち、壁画の右下にコーダがサインを入れて完成した。コロナ禍初期の不安の日々に、「創造の時間」が小さな光明を放ったことを記念する作品となった。

入口左壁



奥左壁



コーダによる完成予想画





【さいごに：個展会場での「どうぶつの絵」全作品展示

応募に寄せられた全ての絵は、コーダの入念なレイアウトに基づき個展会場内の壁一面（天井高 3.9 m、横 10 m）にまとめて展示され、見どころのひとつとなった。

会期中に実施したアーティストトークでも言及されたように、壁画に用いた作品は外側寄りに配置、それ以外の作品を中央寄りに配置された。会期中に壁画が完成することもあり、壁画への使用・不使用をきっかけに、出品者の心中に他者作品との比較による優劣感情が発生することを嫌い、どれもが等しく素晴らしい作品であると示したいコーダの気持ちの表れであった。

コーダは、9月2日からの個展開始から、会場内で多くの時間を過ごし、来場者対応をしつつも、壁画作成に取り組んでいたが、そのような時間を過ごす中で思うものがあったのだろう、壁画に用いる作品を決める際にどうしているかを考えながら選んだかについて参加者にメッセージを届けたいと相談があった。2020年10月6日、壁画の完成に先立ち、コーダのメッセージを会場内にパネルで掲示することにした。内容は以下の通りである。

作品の選考は、展覧会が始まる前に行いました。まずは、お名前を伏せてもらいました。知っている名前があったら迷いが生じると思ったから。

次に動物別に分けました。いろんな動物の種類を選びたかったから。とても素晴らしい作品ばかりだったので、選べるか心配でしたが完成イメージがすでに頭の中にあっただけで十分に悩みながらもそのイメージに沿って選ばせていただきました。

「描く動物のことをよく調べてから描いてください」…と、募集するときに条件を出していました。集まった作品は動物のことを本当によく見て描いてあってしっかり観察してくれたんだな〜と、うれしくなりました。

作品として完成度の高いものもたくさん。わたしには真似できないような素晴らしい作品もありました。でも、そのような作品は「壁画」として見たときに浮いてしまう…だから、素晴らしい作品だけど泣く泣く外したのもたくさんあります。残すかどうか最後まで悩みに悩んだものもあります。

「特別賞」でも差し上げたい!と思う作品もありました。でも、うまく描くことが目的の公募ではないので、賞は設けていません。だから、選ばれなかったからといって作品として優れてなかったというわけではない。…ということ、大きな声でお伝えしたい。

今、会場に展示された皆さんの作品の前で、多くの人が足を止めています。ひとつひとつをじっくりと眺めてくださっています。その表情は、誰もがとても楽しそうです。みなさんが一生懸命楽しみながら描いた作品を通じてたくさんの人にその気持ちが伝わり広がっています。わたしが、いちばん求めていたことです。

改めて、ご参加いただいたみなさん本当にありがとうございました。

コーダ・ヨーコ

絵の応募者の全員が、個展会場に足を運んでくれたようで、コーダもひとりひとりと会話を交わすなかで、応募された絵の感想を直接伝えることができ、楽しいひと時を過ごしたようである。

2020年、コロナ禍初期の大混乱のなか、コーダと市民とともに、壁画プロジェクトを行うことは、「不要不急」と言われ閉館を余儀なくされた美術館をはじめとする文化施設の役割について、そのような環境下で市民とともに行う創造的活動とその作用について、多くのことを考えるきっかけとなった。閉館中であっても、アーティストと市民と、ともに壁画完成を目指すことが出来たこの体験は、美術館に対する市民のニーズを実感でき、活動を続けることへの自信となった。2020年から2年以上経ち、当時のドキュメントをまとめようと思ったのは、混乱しながらも活動を進めたその軌跡を記録に残すことによって、次の災禍が来た時、美術館活動を揺らぎなく展開するための多少の役に立つ備忘録となると考えたからである。また、コーダのガッツなくして、この壁画プロジェクトは成立しなかったことをしみじみと自覚することが出来た。かなりの無理をさせてしまったことを反省しつつ、ここに記し感謝の意を表したい。



撮影：坂本和代

註

- 1 当初、G IIIでのコーダの個展と壁のリニューアルを同時に行うことは想定しておらず、館内会議の折に勧められ、それを選択したのが結果的に壁画プロジェクトの現在形へと繋がっていくことになった。
- 2 そもそもこのタイトルを冠した個展について、コーダは熊本地震の被害の激しかった熊本市動植物園の再開園の応援に主眼を置いていた。開催順に紹介すると、2018年5月に長崎次郎書店(熊本市)、7月にカフェとギャラリー poturi (南さつま市)、9-10月にLINGON gallery(由布市)、11月にミドリネコ舎(熊本市)、2019年1月にcafé クリコット(福岡市)での個展がコーダ自身の企画として開催された。2019年4月以降は、コーダの持ち込み企画ではなく、各館・会場の独自企画の個展として実施された。2019年4月に森都心プラザ図書館(熊本市)、5月に菊池市中央図書館(KiCROSS)、8月に益城町図書館(ミナテラス)、9月に蔦屋書店嘉島(イオンモール熊本内)で開催。

(付録 1)

「募集 どうぶつたちを描く」申込用紙全ページ



「熊本市現代美術館」×「熊本市動植物園」

「熊本市現代美術館」×「熊本市動植物園」
市民とつくるアートプロジェクト
コーダ・ヨーコ 水とあそぶどうぶつたち

募集 どうぶつたち を描く



しめきり：7月末日（必着）
返 信 先：〒860-0845
熊本市中央区上通町 2-3
熊本市現代美術館 宛

申込書

以下の点をご了解いただいたうえでご参加ください

- * 応募作品は返却いたしません。
- * 作品は展示時にローマ字表記での氏名を掲載する予定です。

作品および個人情報の扱いに関する諸注意

- * 作品の著作権は熊本市現代美術館およびコーダ・ヨーコに帰属します。
- * ご記入いただいた個人情報は厳重に保護・管理します。

公的機関から法令に基づき、開示を求められた場合を除き、情報を外部に公開することはありません。

ふりがな			
名前		年齢	歳
ローマ字での名前 <small>* 作品と一緒に表記する予定です</small>			
住所	〒 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> - <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>		
電話番号	() -		
描いたどうぶつ			
どうぶつを描いた感想 <small>うまく描けたところなど</small>			

1 ページ

コーダ・ヨーコさんが選んだ動物 26 種のリスト（ここから選んでね！）

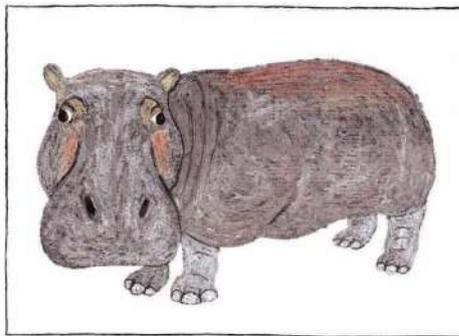
1	エゾヒグマ	Hokkaido Brown Bear
2	ニッポンツキノワグマ	Japanese Black Bear
3	ヒガシクロサイ	Eastern Black Rhinoceros
4	ホッキョクグマ	Polar Bear
5	カピバラ	Capybara
6	キンシコウ	Golden Snub-nosed Monkey
7	マンドリル	Mandrill
8	ワオキツネザル	Ring-tailed Lemur
9	ベニイロフラミンゴ	American Flamingo
10	キュウシュウジカ	Sika Deer
11	モモイロペリカン	Great White Pelican
12	オタリア	South American Sea Lion
13	ユキヒョウ	Snow Leopard
14	グラントシマウマ	Grant's Zebra
15	インドクジャク	Indian Peafowl
16	フンボルトペンギン	Humboldt Penguin
17	ダチョウ	Common Ostrich
18	マサイキリン	Masai Giraffe
19	カバ	Common Hippopotamus
20	マレーグマ	Sun Bear
21	ライオン	Lion
22	アフリカゾウ	African Bush Elephant
23	メガネカイマン	Common Caiman
24	シフゾウ	Père David's Deer
25	ニホンイヌワシ	Japanese Golden Eagle
26	アムールトラ	Amur tiger

*もし、リスト外のお気に入りの動物がいたら、もちろんそれを描いて OK !
（動植物園にいる動物に限ります）

絵を描く時のルール *コーダ・ヨーコさんからのお願い*

- ・同封の動物リストから1種類選んで動物を描きます（動植物園にいる動物です）
 - ・画材は自由（クレヨン・絵の具・色鉛筆など）
 - ・図鑑などで、その動物のことをよく調べて描いてもらえたらうれしいです。
 - * 熊本市動植物園が発信するYouTube 動画も是非チェックしてね！熊本市動物園の飼育blogやSNSでも動物の紹介をしています！「www.ezooko.jp」、「Kumamoto Zoo Channel」で検索
 - ・どうぶつの絵は「キリヌキ」で使用します。
 - (1) どうぶつの全身を描く（正面・横向きなどは自由です）
 - (2) 画用紙からはみ出さないように描く（でも、できるだけ大きく描いてください）
 - (3) 背景は描かない（どうぶつのみ、背景に色も塗らないでください）
- *上記のルールに当てはまらない場合、採用できない可能性がありますので、くれぐれもご注意ください。

見本



右：用紙をヨコにするとき 左：用紙をタテにするとき

作家よりメッセージ

今、世界中の人々が、元気をなくし不安な毎日を過ごしています。
先が見えない不安や、行きたい場所へ行けない悲しみ、大切な人に会えないさみしさ…
みなさんも、いろんな思いで毎日を過ごしていることでしょう。

こんな時だけど…、こんな時だから、絵を描いてみませんか？
わたしはいつも不安な時に絵を描いて心を落ち着かせてきました。
夢中になって絵を描いていると、不安な気持ちを忘れ、自分を取り戻せるのです。

ぜひ、みなさんの元気いっぱいのどうぶつの絵を届けてください。
うまく描こうとせず、その時間をおもいっきり楽しみながら描いてください。
そうやって完成した作品は、今度はきっと誰かの元気の素になります。

閉館・閉園を余儀なくされている「熊本市現代美術館」と「熊本市動植物園」のみなさん、
今後熊本で開かれる予定の「アジア・太平洋水サミット」事務局スタッフの方々と一緒に企画しました。
みなさんの元気な作品を、みんなで楽しみに、待っています。



コーダ・ヨーコ

お問い合わせ先：熊本市現代美術館 電話 096-278-7500 gamadas@camk.or.jp

(付録2)

コーダと連名で送付したお見舞いの手紙（全文）

どうぶつの絵を描くプロジェクトに応募してくれたみなさんへ

みなさんの中に、今回の大雨の被害にあった人はいませんか？

みなさん、だいじょうぶですか？

大きな雨粒がたくさん空から落ちてきて

とても怖い思いをしましたね。

わたし達も、とても、怖かったです。

先日、熊本市動植物園に行ってきました。

水位は上がったけど、大きな被害はなかったようでホッとしました。

クロクモザルは、雨に濡れるのが嫌なのか

小屋の中で団子のようにみんなで固まっていました。

黒いのでいったい何匹いるのかわかりません。

カバは、プールの中で丸太の引っ張り合いっこ。

雨は、なんともないようです。

アフリカゾウは、相変わらず食欲は旺盛のようです。

雨に濡れるのがあまり好きではないのか、ゾウ舎の傍らで雨宿り。

でも、体が大きいので、はみ出て濡れていました。

シロクジャクの雛が生まれていました。

まだボサボサで、怪獣の子どもみたい。

特別に触らせてもらいましたがとても温かったです。

どんな時も、動物たちは大らかで、無邪気で、

ますます愛おしくなりました。

熊本地震や新型コロナ、今回の豪雨を体験したみなさんが描くどうぶつの絵は、

多くの人の中に元気を与える作品になると思います。

すでに届いた作品は、どれも力強く、とてもうれしく拝見しています。

これから届く作品も、心から楽しみにしていますね。

まだ、雨は続きそうですが、
みなさん、気をつけて過ごしてください。

太陽は必ず顔を出してくれます。
その日が1日も早く、やってくることを祈って。

*今回の豪雨で被害に遭われた人はいませんか？
落ち着いてからで構いませんので、美術館にご連絡いただければと思います。
必要であれば、新たに画用紙と応募用紙をご用意します。

コーダ・ヨーコ
熊本市現代美術館 富澤治子